

『原子力災害から身を守る』

今、原子力災害が発生したら、皆さんはどうしますか？
第9回のコラムは、『原子力災害時の身を守る行動』
についてのおはなしです。



原子力災害は地震や津波、台風等の災害と異なり、目に見えない災害です。
災害が発生した時に、混乱しないためには、正確な情報を収集し災害の状況に応じた適切な行動を知っておくことが重要です。






原子力災害の進展状況と適切な行動

		事故の進展					
原子力施設で事故等が発生	事態区分	警戒事態 異常事態が発生または発生する恐れ。	施設敷地緊急事態 放射性物質放出の可能性あり。	全面緊急事態 重大事故が発生。放射性物質放出の可能性が高い。	放射性物質放出	放射性物質放出 1時間あたり 20μSv以上	放射性物質放出 1時間あたり 500μSv以上
	状況	原子力施設が存在する市町村で震度6弱以上の地震が発生 など	施設の交流電源が全て停止 など	施設を冷却する機能が停止 など		※通常の400倍を超える放射線量	※通常の10,000倍を超える放射線量
	行動	情報収集	情報収集 屋内退避準備	屋内退避		一時移転 (1週間以内)	避難 (1日以内)

※大洗町は、災害の進展状況に応じて、町民のみなさまが取るべき行動について、防災無線やホームページ等でお知らせします。

原子力災害時の基本的な防護措置である『屋内退避』について説明します。

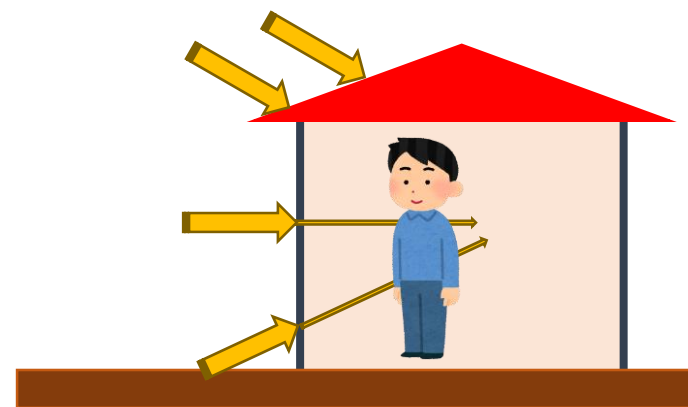
屋内退避のポイント

	町の防災無線やTV等で正確な情報入手する。
	大洗町から屋内退避の指示が出たら、自宅や職場等の屋内に入る。
	屋内に入ったら、手洗いやうがいを行い、衣服を着替える。 ※脱いだ衣類は袋で保管。
	外気の侵入を防ぐため、ドアや窓を閉め、換気扇を止める。
	食品にはフタをしたり、ラップをする。

屋内退避の効果

屋内に入ることによって、外気や地面からの放射線の影響をおさえることができます。

木造建屋 60%カット
コンクリート建屋 80%カット



原子力災害が発生した時は、焦らず、騒がず。まずは屋内退避を行うことが重要じゃ！

次回は、『**安定ヨウ素剤**』というテーマで、広報誌11月号の掲載を予定しています。



問合せ 生活環境課 防災・原子力安全係 267-5111 (内線246)